

JPTA



NEWS

2024.8

vol.350



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

飛躍への基盤作り 課題とこれから



会報誌「JPTA NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。

右記のQRコードを読み取り、アンケートフォームからご回答ください。



ISSN 0914-2517

2023年度は、
どんな事業計画を
立てたのか
見てみよう！

＝特集＝

飛躍への 課題とこれから

理学療法士として、すべてのひとの健康と幸福を実現するために／

会員の皆さんは、協会はどういう事業をやっているのだろうか？と疑問に思ったことがあるのではないのでしょうか。本会は、職能団体として、理学療法の発展に貢献をし、国民に質の高い理学療法を届けるための活動を行っています。質の高い理学療法を届けるために、会員への学習機会の提供、国等への働きかけ、都道府県理学療法士会や他団体との連携など、さまざまな取り組みを行っています。本号では、2023年度の本会事業を振り返り、**課題**と2024年度の**これから**をご紹介します。

※取り上げている事業は一部です。

【協会の理念】



<https://www.japanpt.or.jp/about/philosophy/>

目標 ①②

令和6年度 トリプル改定

会員の皆さんにも大きく関係する令和6年度医療・介護・障害福祉のトリプル改定では、以下の改定率となりました。

- 診療報酬：+0.88%
- 介護報酬：+1.59%
- 障害福祉サービス等報酬：+1.12%

今回のプラス改定は、リハビリテーション専門職や看護職等の賃上げにも充ててことを想定して決定されました。本会は、実際に賃上げが実施されるよう今後の賃上げの動向を確認するとともに、さらなる処遇改善を関係省庁に対して訴えていきます。

令和6年度トリプル改定の詳細は、JPTA NEWS 6月号をご覧ください。

会員限定コンテンツ JPTA-Topics バックナンバー

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/backnumber/>



目標 ③

健康づくり・予防領域の取り組み

労働災害防止やスポーツなど、医行為ではない範囲での理学療法の領域を広げ、国民の健康増進や理学療法士の活躍の促進を図っています。その取り組みを通して、さまざまな社会的評価を得ることができました。

【高齢者就労・労働災害防止での取り組み】

本会は、イオンリテール株式会社との連携のもと、小売業で働く方に対する転倒等の労働災害発生の改善のための取り組みを行ってきました。本取り組みに対して、SAFE アワードの「企業等間連携部門 ゴールド賞」を受賞しました。労働災害防止に向けた理学療法士の活躍促進のために、今後も活動を推進していきます。

厚生労働省主催
労働災害防止等に向けて取り組んでいる企業・団体が応募し、一般投票等にて5つの部門で賞が授与されます。



https://www.japanpt.or.jp/info/20240209_642.html

【スポーツ領域での取り組み】

「Sports in Life コンソーシアム」に本会が加盟承認されました。加盟承認により、加盟団体間の連携や情報共有などのサポートを受けることができ、国民に向けた健康増進の活動に役立ちます。さらには、取り組みを通して理学療法の質や信頼性の促進に繋がっていきます。

スポーツ庁主催
多くの方にスポーツを楽しんでいただける社会を目指したプロジェクトです。



https://www.japanpt.or.jp/info/20231006_433.html

9つの目標を設定しました！

- 理学療法士の職域の維持拡大（目標①～⑤）
- 理学療法士の質の向上（目標⑥）
- 組織運営強化（目標⑦～⑨）

2023年度事業目標の詳細は、JPTA NEWS 2023年8月号をご覧ください。

会員限定コンテンツ JPTA-Topics バックナンバー

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/backnumber/>



目標 ④

理学療法士や関連産業の国際展開へ

国内外のヘルスケア分野における理学療法士の活躍促進や仕組みの構築に向けて、2023年度も国際事業に取り組みました。

- 各国や地域の理学療法士協会、その他関係組織と協定締結
理学療法の発展のために連携が強化されます。さらには、グローバル化に伴う海外での日本人理学療法士の活躍のフィールド作りにも繋がります。
- （公財）国際医療技術財団（JIMTEF）、ベトナム理学療法士協会、ベトナムリハビリテーション協会との多組織間協定締結
- カンボジア理学療法士協会、カンボジア健康科学大学との多組織間協定締結

国外での活動もやっているんだね！

月々500円～の保険！？
しかも、自分だけではなく家族も加入できるんだね。

2024年度も継続して取り組んで成果に繋がります！

目標 ⑨

会員満足度向上に向けて

会員の皆さんの満足度向上に向けて、本会は取り組みを進めています。

【認定スクールトレーナー®事業】

（公財）運動器の健康・日本協会の「認定スクールトレーナー®」の養成が始まることとなり、受講者資格に、理学療法士であることが明記されました。認定スクールトレーナー®を有することで、児童生徒の運動器の健康増進と健全な成長・発達に、さらに貢献することができます。活動の例として、教職員・保護者を対象とした運動器の講演や小学生を対象とした実技指導、運動部活動の相談などがあります。養成講習会のご案内は、本会のホームページの最新情報をご確認ください。

【医療・傷害保険の見直し】

2022年度に行った福利厚生制度の現状確認の結果をもとに、医療保険の商品内容と補償内容の検討を行いました。その結果、会員とご家族を対象とした団体割引率最大約46%の保険「リガード」の提供ができるようになりました。

例えば、3人家族（25～29歳の夫妻、2歳のお子さん）の場合、家族全員で2000円以下のご負担で加入できます。
※入院3,000円プランの場合



https://www.japanpt.or.jp/info/20240524_861.html

協会間の事業はこちら

理学療法士向けトップページ 国際事業 協会間の事業

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/cooperation/>



【都道府県理学療法士会の国際関連事業事例紹介 報告会を開催】
グローバル化が進む中、理学療法士が持続的に活躍できる仕組み作りとして、都道府県理学療法士会の事例を紹介いたしました。

会員限定コンテンツ 国際事業 国際活動の普及

https://www.japanpt.or.jp/privilege/international/activity_spread/#title01



海外理学療法士や学生の施設見学または臨床実習受け入れ支援
受け入れ支援のアンケート調査結果はこちら

理学療法士向けトップページ 国際事業 グローバル化と理学療法

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/globalization/#a7>



内閣官房健康・医療戦略室と共催で、アラブ首長国連邦で「第4回アジア理学療法フォーラム」を対面開催

対面で12か国、オンデマンドで6か国が参加し、健康寿命社会の形成に向けた取り組みについて意見を交わしました。

https://www.japanpt.or.jp/info/20230628_260.html



今後も関連産業の国際展開を目指し、会員の皆さんの国際的な活動拡大を目指していきます。

現体制 **2** 年目スタート！

2024年度

飛躍のための基礎作り

会員の皆さんは、将来の理学療法士はどのように活躍し、どのようなことを世の中から求められるようになると思いますか？少子高齢化や労働力不足など、2040 年に向けた社会的課題が話題になっている中、理学療法士として、将来に不安を抱えている方も少なからずいるのではないのでしょうか。

本会は、職能団体として、会員の皆さんの不安に向き合い、社会課題に応えるためにも、まずは協会創立 60 周年となる 2026 年を目途に飛躍のための基礎作りをしていきます。

2024年度 重点目標

なぜこの目標？

何が必要？

どのようなことを
取り組むの？

1 専門職としての キャリアデザインの 支援

理学療法士が活躍できる領域を広げ、
体制の構築を行います

働く人の人口減少
複雑化する社会のニーズ

一人ひとりの能力が伸びるように支援する
理学療法士の領域や地域の偏りを改善する

理学療法士作業療法士学校養成
施設指定規則改正の本案案を検討
動物に対する理学療法の推進

2 理学療法業務の 強化と推進

支え手の減少
地域ごとの格差

あらゆる年代を支え、
地域に根付いた
理学療法を届ける

理学療法の未来に向けて、取り組んでいます！
理学療法士の公衆衛生等における
業務の構築と検討
理学療法分野での先進的な
デジタル技術（DX や AI）の推進
保険外である健康づくりや予防活動、
保健事業などの政策立案

3 地域における リハビリテーションと 健康づくり・予防を支える 理学療法士の自律性の向上

支え手の減少

そのために……
一人ひとりの能力の向上
理学療法提供の効率性が必要
理学療法士の
労働生産性を向上させる

産業理学療法のテキスト作成
産業理学療法の研修体制の検討と準備
介護予防領域の 3 か年計画の作成と実行

4 組織基盤強化

会員の皆さんの支えにより、
協会の事業は成り立っています

入会率の低下、
休退会者の増加

「給与や労働条件改善のための政策提言」や
「生涯学習の充実」も含め、「会員で良かった！」と
思ってもらえるような施策を実施します

入会や会員の定着を促進する
事業の着実かつ円滑な実施の土台を作る

会員の皆さんへのサービスの充実
都道府県理学療法士会と
連携をした取り組みと実施

2024年度

これからの 協会事業

これからの理学療法の未来に向かって、本会は2024年度も職能・政策・教育・学術、国際を中心にさまざまな事業に取り組んでいきます。本会の事業は、会員の皆さんのご協力や都道府県理学療法士会、日本理学療法学会連合との連携により成り立っています。ぜひ、2024年度の本会の事業を知っていただき、ご活用ください。

理学療法の未来のために一丸となって工夫や努力を重ねて、事業を行います。

教育

理学療法士
作業療法士学校養成施設
指定規則の改正に向けて

指定規則は、理学療法士教育の基準を定めた省令であり、5年を目処に改正される予定です。次回の改正は、2025年度に厚生労働省内のカリキュラム改善検討会で検討される予定です。改正に向けて、「公衆衛生」や「保健指導」など、将来の職域の広がりを見据え、理学療法士教育の質向上に繋がるよう取り組みます。

政策

公衆衛生等
理学療法業務構築・
検討部会

本部会では、理学療法の定義・解釈と理学療法士業務を整理し、関係法令における公衆衛生等の明文化やタスクシフト・シェアに係る業務の整理等に資する協議を進めています。具体的には、現状の課題抽出や関係各所へのヒアリング、理事会での意思決定に向けた提案の整理などを行い、国への提言の検討を含めた部会を開催していきます。

理学療法の発展のために、
いろいろな部会が
あるんだね！
どんな活動をやるのかな？

政策

政府・行政への
要望活動

理学療法を必要とする方々へ十分なサービスを提供することができ、理学療法士の処遇も改善されるよう、省庁各所の予算や事業への要望を進めます。また、理学療法の質向上のため、生涯学習制度が政府・行政と連携した制度となるよう進めます。加えて、都道府県理学療法士会と連携して地域での政策活動を支援します。

職能

令和6年度報酬改定内容を
踏まえた動画コンテンツ公開

令和6年度報酬改定に基づき、理学療法士に求められる知識・技術について動画コンテンツを公開しました。第一弾は、慢性腎臓病の透析予防に関する理学療法士の役割を紹介しています。ぜひご覧ください。

会員限定
コンテンツ
職能事業
協会指定
職能研修会
社会保障制度
の普及啓発
<https://www.japanpt.or.jp/privilege/profession/seminar/sss/>



World
Physiotherapy
Congress は、
25年ぶりに
日本で開催！

教育

4年制大学化推進に向けての
シンポジウム開催予定！

理学療法士養成課程の4年制大学化推進に向けて、2025年1月に有識者を交えたシンポジウムを開催します。世界理学療法連盟の専門家や教育の第一線で活躍する先生方が集い、理学療法士の養成課程をより充実させるための具体的な議論を展開する予定です。詳細については、決定次第、本会のホームページなどでお知らせいたします。

国際

World Physiotherapy Congress 2025
演題および参加登録受付中

World Physiotherapy Congress 2025の開催まで1年を切りました。演題は10月3日（木）まで受付中、参加登録も開始されています。国際学会での演題登録に慣れていない方向けに、サポートプログラムが用意されています。参加登録についても、本会会員であれば、特別割引を受けることができます。四半世紀ぶりの世界学会の日本開催を一緒に盛り上げましょう！



<https://wp2025.world.physio>



職能

動物に対する理学療法の
普及に関する取り組み

皆さんは、「動物」に対する理学療法をご存知でしょうか。ペットや競走馬など、獣医師、動物看護師などと協働した、さまざまな動物との関わりが広がっています。一方で、その実践例は限られており、本領域に関する情報や学びの場は少ない現状です。そこで本会では、学びの導入とする研修動画の配信や希望者への情報配信を行っています。

会員限定
コンテンツ
職能事業
動物に対する
理学療法
<https://www.japanpt.or.jp/privilege/profession/animal/>



国際

国際社会で活躍する
理学療法士を目指して

国際社会で活躍できる専門職の育成に寄与すべく、Global CaféやJOPTOP、SNSでの情報配信などの事業に取り組んでいます。本会ホームページでは、海外で理学療法士として働くプロセス、海外留学・就労経験者プロフィールなど、キャリア支援に役立つ情報を掲載しています。「国際活動への協力者」の登録者には、国際的なイベント情報なども配信しています。



理学療法士の方向け
トップページ
国際事業
<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/>



職能

令和8年度
診療報酬改定に向けて

本会では、「令和8年度診療報酬改定対策強化推進部会」を設置し、次期診療報酬改定に向けた方策を検討しています。また、日本理学療法学会連合や「令和8年度診療報酬改定に向けた検討会」の構成員・聴講者へのヒアリングなどを通じて、現場の課題や理学療法に関するエビデンスを収集し、要望活動の準備を進めます。

会員限定
コンテンツ
政治・
渉外活動
報酬改定
<https://www.japanpt.or.jp/privilege/politics/insurance/>



掲載している事業は一部です。本会の取り組みは会報誌や協会ホームページなどで随時発信しますので、ぜひご活用ください。

CrossTalk

「理学療法士は未来があります。」

会長 齊藤 秀之

今、日本は人口減少社会や労働力不足など、複雑化する課題がある中、理学療法の社会への関わりや支えが求められています。そのような時勢にあって、これからの理学療法の発展のために、本会が2023年度の事業にどのように取り組み、2024年度は何を目指していくのか。会長就任から四年目の今だから言える、齊藤会長の想いを語っていただきました。

会長就任からを振り返って 一覚悟し直しています―

吉田：会長に就任され、二期目の二年目ですね。思い描いた通りの歩みでしょうか？

齊藤：就任前は、副会長として前会長をお支えしてきましたが、実際に会長になってから見える景色や情報量、意思決定のレベルや範囲感など、違うと感じています。会長に就任した時には新型コロナウイルス感染症の蔓延が継続していることもあり、社会的なことも含め、さまざまなベースとなる背景がガラッと変わりました。

吉田：具体的にどのように感じていますか。

齊藤：会員数が増え、本会や理学療法士は社会的な見られ方や価値観が変わり、過去の経験則で継続して良いところと見直しが必要なところがあると感じています。また、コンセンサスを得るためには時間がか

かると感じました。そこは、自分の力のなさを感じた点ですね。会長に就任してから「はあ、へえ、ふう」という感じです。聞いている話と違うことがあったり、実はこうだったのかと推察されることがあったりという意味です。こういう中で前会長がご苦労されてきたというのわかりました。二期目になり、自分の覚悟が足りなかったという思いもあり、今覚悟し直しています。

吉田：会長に就任されてから、どのようなことを意識されてきましたか。

齊藤：就任時から、会長をはじめ、都道府県理学療法士会（以下、士会）の役員の方々と意識的にコネクションを持つようにしています。また、今期に入ってから、外部の方々から情報を得るようにして、それ

を関係理事や事務長などと、早めに情報を共有するスタイルを意識しています。

吉田：我々会員が普段入手する情報は、いろいろな外部との意見交換や内部での討議を経て固まり、仕上げ終わった情報です。ですが、会長という立場は、まだ形の定まらない上流工程の情報に囲まれるという、独特なお立場と感じています。

齊藤：先達の会長やいろいろな方の積み上げにより、そういう環境を作っていただいたのだと思います。今は、自分達のことは自分達で、社会に訴えなければいけないと思います。一方で、独りよがりではなく、多職種や他団体からも支持してもらわないといけません。会員の皆さんに隔々まで伝えることはまだ十分ではないと感じています。

2023年度事業を振り返って

吉田：昨年度はトリプル改定の前年でした。中央省庁ばかりでなく、多くの職能団体などとの交渉や意見交換の機会が集中し、随分大変だったのではないのでしょうか。

齊藤：当初、財源が付かないことが医療界の中で話題になっていました。その方向で頑なだという、周囲からの情報が一致していたため、佐々木副会長をはじめとする診療報酬対策本部のほうで、改定内容の合意形成は精緻に対応しました。その対応に関しては安心していましたが、一方でどんなに良い提案や主張をしても財源が付かなければどうすることもできませんので、その点が心配でした。

吉田：今回のタイミングは新型コロナウイルス感染防止対策明けの大型改定でもあり、財務省もしっかりと将来の支出を引き締めていきたい意向が強かったように思います。

齊藤：結果は満足できるものではありませんでしたが、今回のプロセスの中で今後の財産となるような活動が常勤役員や政治団体である連盟の人達とともにできたと思っています。全国の会員の皆さんの日々の現場での向き合い方がステークホルダーの団体にも伝わり、かつ政策を定める官庁や国会の中でも信頼を得ているという評価を受けた背景があると思っています。私達が会員の皆さんから負託を受けて活動をさせていたということが、より効果的に繋がっていると改めて感じました。

吉田：理事や関係者の方を巻き込みながら進められたのですね。

齊藤：はい。日本作業療法士協会（以下、OT協会）や日本言語聴覚士協会（以下、ST協会）とも力を合わせて一緒に進めました。そういう活動をしたことが次に繋がると思っています。

吉田：利害関係者の多様な主張も取り入れて調整しながら、新しい未来を協働して描いていくプロセスといえそうです。地域包括ケアの推進・深化に向け、チームの一員として改定作業に臨んだ経験から得たことは何でしょうか。

齊藤：自分のやっていることを自信を持って主張することで、利害関係者の理解も得られると思えたことでしょうか。

吉田：心強いお言葉です。医療と介護の報酬改定の目玉はどちらもさらなる多職種連携の強化です。栄養士などとの新たな連携も始まります。不安に思う会員もいるでしょうが、会長自らが私達会員の背中を押してくださった感じがします。

齊藤：会員の皆さんには、現場の成功事例を積極的に挙げていただきたいですね。それは学会という場や協会・士会の場で、主張、論文などいろいろな方法があると思います。他職種では思いつかない、理学療法士の良い発想がありますので、結果や制度になっていなくても取り上げると良いのではないのでしょうか。

吉田：トリプル改定に加えて、昨年度は教育にも力を入れてこられた印象を持っています。

齊藤：教育は、過去に理学療法士の「質の低下」など、さまざまなご意見がありまし



関連団体とともに武見 敬三厚生労働大臣へ要望書提出

た。そこに耐えうる生涯学習制度にチェンジしようという点でした。ただ、会員が少ない地域や大都市以外の受講機会がないこと、育休・産休の会員に寄り添えていないという課題もありました。課題に対して解決するために、会員システムと連動させ、検討委員会で何度も揉んで決めました。たまに、「私達、理学療法士の学びのスタイルとは何だろうか」と思う時があります。今、医師や看護師の卒後研修が法律と義務化で評価されているように、私達が目指しているシステムは専門性を深める制度としてだけではなく、社会的に評価されるような認証制度です。かつ、地域や職場で理学療法士がきちんと研鑽している事実が見える化できる仕組みが欠かせないと思います。ぜひ、会員や管理者の皆さんには、教育においてもパラダイムシフトが必要だということを知っていただきたいです。

吉田：令和になって、他の職種・領域の方、地域の方と円滑に意思疎通を図る力量、創発的なディスカッションに貢献する力量がますます問われています。今は若いうちからさまざまな立場の方と深く対話する機会が増えていきます。患者さんや利用者さんが抱える問



題、あるいは大切な価値観が多様になったからです。そういう意味で、専門性を深める教育システムに加え、例えば、体験型プログラムやワークショップなど、身体や感覚を通じて効果的に学ぶ方法が求められているのかもしれないと気づかされます。

斉藤：そういう意識を持ってもらえたらありがたいです。一般的な内容は絶えずブラッシュアップしないといけないですね。最前線の知識に、年齢は関係ないのではないのでしょうか。卒前の勉強を卒後でも求める傾向があると思いますが、私は卒前と卒後の学びは整理するべきだと思います。平均的に高めることも大事ですし、ジェネラルと同時に専門性を高めるのも良いのではないのでしょうか。とはいえ、重複疾患や高齢型、多職種連携が当たり前になり、逆にいうと理学療法士に過大な期待がかかっている中で、今までのふるまいでは耐えられないとも思っています。そういう意味では、登録理学療法士制度に繋がっています。

吉田：従来の良いところを残しつつも、新しい未来に対して実際の制度と運用を合わせいく必要があると思います。

斉藤：一生懸命努力している会員の皆さんが主体的に学ぶことを、将来、士会が承認できる仕組みが生涯学習制度としてできたら良いのではないかと考えています。認定・専門理学療法士制度において、士会が特色を持って教育機関になるというのも一つの手ではないでしょうか。

吉田：問題解決の正解はいつも現場にあるように、標準化されたマニュアルだけでは課題が解決しにくい時代とも言われます。

都道府県単位、あるいは市区町村単位で課題解決をデザインしやすい仕組み作りが求められそうです。かつ、相互の支え合いも欠かせません。

斉藤：そうですね。そのことに応じて、協会に所属しているメリットやルールが共有できれば良いと思います。ただそれを浸透させるのはかなり時間がかかると思います。丁寧に進めるつもりです。

吉田：地道に取り組んでようやく育つものもあるということですね。

斉藤：はい。筋肉の肥大に時間がかかるのと同じですね（笑）。理学療法士の数が多いことや平均年齢が若いことはマイナス点だと言われてきましたが、私は強みだと思っています。数が多いからこそ、発想や可能性があると思います。時代が答えを早く求めるようなデジタル社会になりましたが、数が多いからこそ、急がなくても良いこともあると思っています。昔は、数が少なかったからこそ、すぐに一人前、管理者のように結果を出せる人材を競って採用していました。しかし、今はそのモデルを求めないで、「準備期間」と考えても良いのではないのでしょうか。

吉田：興味深い発想ですね！

斉藤：もしそのような人が日本に5万人いれば、国としても力になりますよね。若い世代が多いというのは、グローバルやデジタルにも順応できる会員が多いということだと思います。今の時代に一番マッチしていると思います。

吉田：昨年、介護事業所のICT（情報通信技術）の導入実態を調査しました。そ



ベトナムでの4者MOU

の中で、リハビリテーション（以下、リハ）部門のICT化は他の部門より進みが早いのです。理学療法士は、ICTにフレンドリーな方が多いのか、抵抗なく業務に取り込んでいると実感しました。理学療法士の専門性とは異なりますが、確かな強みを見た思いです。この他にも不確実な時代にうまく適応できる強みが備わっている気がします。

斉藤：私もそう思います。今はなかなか厳しい社会背景がある中でも、努力をされている会員の皆さんと対話を重ね、置かれた環境を良くできるような取り組みをしたいと思っています。

吉田：国内の取り組みだけでなく、昨年度は海外の取り組みも推し進められていると感じました。

斉藤：前会長がアジアなどに貢献しなければいけないという話をされており、特に免許の互換性が頭に残っています。海外では日本のライセンスは制限されていますが、顧問会議の際に、二国間ならできるのではないかと話ができました。そこで、一つのスローガンとして、日本の免許を取れば、他国でも働くことができる可能性はないかということ国際事業課の担当理事に調べてもらっています。賛助会員の（公財）国際医療技術財団（JIMTEF）と意見交換させていた

だいたに理学療法を中心とした事業ができないかという話をきっかけに、昨年度、ベトナムでの4者MOU（基本合意書）締結などの成果に繋がりました。種まきの段階ですが、ベトナムに日本のODA（政府開発援助）のような資金を調達するようなフレームワークを構築することを目標にしています。最終的にアジアの拠点をベトナムでできました。財政的に厳しい時期でしたが、理事会でも話をして、費用対効果を検討のうえ、理学療法の地位や日本国内のプレゼンス向上を考え、お願いをしました。

吉田：二国間の実績を積み上げて、拡大の起点にする発想は面白いスキームです。高齢化が進むベトナムでは、介護の社会化はこれからの課題です。超高齢化社会に関する課題先進国である日本で発展した理学療法の学問体系や技術、あるいは理

学療法士に対する社会的な期待の変遷に関する情報と経験はきっと喜ばれるでしょう。
斉藤：ベトナムは、理学療法士の資格制度がまだできていないそうです。日本栄養士会の会長と話した際に昔の栄養士の資格もそうだったと聞きました。それを聞いて、いつか一緒に活動ができたら良いと思いました。国際と多職種連携は意外と繋がるのかもしれない。

吉田：1960年代の理学療法では、学校の講師には外国の理学療法士もいて、テキストも講義も英語を使ったと伺ったことがあります。日本の理学療法の歴史も60年を迎えます。日本が他国に恩返しする機会という意味もあり、一会員として誇らしくもあります。

斉藤：そこに、学術的な考慮だけではなく、社会実装的なモデルも入れたいと思っています。

吉田：協会事業が生まれる前後の物語を聞

く機会は案外なく、この件は会長の声がけがきっかけだったとは新鮮な驚きでした。

次に、収支や財務の側面を振り返っていただけますでしょうか。

斉藤：そうですね。最終的には黒字決算でしたが、ここ数年の予算ベースでは、保守的な予算を組んでいました。今年度は、昨年度の経験を踏まえて、業務執行理事会の回数を増やしたこともあり、各業務執行オーバービューが頻繁に行え、情報伝達など、業務間の連携にも繋がりました。また、専務理事などが事業進捗をしっかりと見てくれていたこともあります。ただ、財務指標的にみると、これ以上、経費節約に行き過ぎるのは良くないと思います。そのため、ここ数年の事業運営では、今までと違う発想で、会費を適切に活用する方法を考える必要があると思っています。

これからの事業計画 —メリハリをつけて実施—

吉田：総会も無事に終了しました。2024年度の事業計画をご紹介します。

斉藤：事業計画は「重点的にやるもの」、「継続的にやるもの」、「新規にやるもの」とメリハリをつけました。例えば、4年制教育や大学の問題は、すでに総会決議もしていますが、いつどうするのが難しい内容だと思います。これはもう明確な重点課題として複数年にわたる事業と位置づけて、組織代表議員である田中まさし参議院議員に、ある程度のハンドリングをお願いする必要があると思います。継続的な事

業では、昨年度の入会者や休会者に対する分析と報告を行いましたので、社会に耐える組織率を維持するため、今年度は積極的に取り組んでいく必要があると思っています。予算編成に関しても、専務理事と事務長などと共有をして、各担当で予算を組んでもらいました。動物の理学療法は、小学校定員よりペットを飼っている人が多いという話を聞いて、国内の実態や海外の状況を鑑みたものです。2019年に愛玩動物看護師法ができたため、動物の理学療法に関わる理学療法士の業務が守られな



総会 冒頭挨拶

い可能性もありました。そういう背景もあるため、我々の職域を広げるためにも、本会として対策を打ち出す必要があるという認識がありました。法制度化するのか、形づけるのかを視野に入れて、重点目標にし



した。一方で、賃上げの調査も必要です。向こう10年は、賃上げを国に働きかけます。関係機関とも協力して、調査もします。また、今回の骨太の計画に載るまでの活動が弱かったと反省もありますので、見直さないといいけません。令和8年度の診療報酬改定の準備も必要です。

吉田：今年は1月に能登半島地震があり、危機管理体制や発災後の支援体制の強化も欠かせません。

斉藤：そうですね。今までは、災害救助法および関連法令・通達等にリハ専門職の職名は明記されておらず、財源がありませんでしたが、支援活動を半年間行いまし

た。今やっている取り組みは、ぶれずに成熟させていきたいと思っています。OT協会とST協会とも足並みを揃えないといけません。つい先日、月1回の打ち合わせをするのを両協会の会長と合意しました。国で決定したことを士会で混乱が生じないように準備していく必要があります。経営者団体にもご理解いただけるようお願いが必要だと思っています。昨年度、賃上げを医療関連団体などをお願いをしました。そういうことを積極的にやることも協会の役割だと思っており、これからそのような活動が増えると思っています。

吉田：地域のいろいろなステークホルダーと

ともに課題に向き合える基盤を強固にするため、会長が率先して働きかけておられる様子が伝わります。

斉藤：会員の皆さんも積極的にいろいろな方と話してほしいですね。

吉田：その取り組み目標の一つが、士会での市区町村単位の窓口設置でしょうか。

斉藤：はい。協会は、そこにコミットしやすい社会環境を作ることが役割だと思えます。会員の皆さんが地域の仕事をやりやすくして、持続可能性のある予算事業にならないといけないと思います。

最後に…

吉田：ますます先の読みにくい時代になり、常に新しい取り組みを迫られるような漠然とした不安を感じる人も少なくないようです。これからどういったことが重要視されると思いますか。

斉藤：新しいことをするには時間がかかりますね。あまり拙速にやると内外に難しいこともあると思います。独りよがりな事業の進め方ではなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力、そして、信頼に基づく関係作りが問われる点ではないでしょうか。

吉田：理学療法士に対する社会の認知と信頼がこれまでになく高まったのも、全国の会員一人ひとりが自分の持ち場で信頼を丁寧に積み重ねてこられたからこそといえます。

斉藤：仰るとおりですね。

吉田：最後に、これからの1年間、ぜひ注目してほしいところを教えてください。そして、会員の皆さんへのメッセージをお願いいたします。

斉藤：私は、「理学療法が好き」という気持ちに会員の誰もが共感できて、最終的にそこで繋がっている、と固く信じています。そして、一人では解決できない課題のほうによっぽど多いと思います。ですから、団結をして、舵取りをしようとしている姿を見てほしいですね。この国に必要な職種として、ここ1、2年で分岐点がきていると思っています。来年の世界理学療法連盟学会の後に60周年の日本理学療法学会研修大会があるため、皆で集まって雰囲気作りをしたいと思っています。メッセージとしては、「胸を張って、進めてほしい」ということで

す。協会としても会員の皆さんに対してさまざまなご支援をしていきますので、これを読まれたら明日からまた目を輝かせて頑張ってください。

PROFILE



埼玉県立大学 地域連携センター 教授

吉田 俊之さん

Toshiyuki Yoshida

理学療法士。MBA(経営学修士)。2010年から2014年、(公社)日本理学療法士協会勤務。2016年から(株)NTTデータ経営研究所に勤務し、2023年から現職。専門分野は、地域包括ケアや医療介護政策、福祉経営など。



World Physiotherapy Congress 2025 演題登録開始

Vol. 3

【大会概要】
日時：2025年5月29日(木)～31日(土)
会場：東京国際フォーラム(東京都)
※第60回日本理学療法学会研修大会(2025年5月31日(土)～6月1日(日))と連続開催

演題登録のサポートプログラム紹介

World Physiotherapyは、2025年の学会にむけて、演題登録の募集をはじめました。このたび、多くの日本理学療法士協会会員の皆さんにご参加いただきたく、演題登録のサポートプログラムを実施することになりました。これは、正式な審査プロセスに提出する前に、必要な情報を明確かつ簡潔にするためのものです。

World Physiotherapy Congressの学会プログラム委員会は、日本の理学療法士の皆さんから、多くの演題のご提出をお待ちしています。演題登録の詳細は前号(6月号)をご参照ください。

Deadline ～締切の紹介～

● サポートプログラム

[登録締切] 2024年9月16日(月)
[詳細はこちら] <https://wp2025.world.physio/abstract-support>



● アブストラクト

[登録締切] 2024年10月3日(木)
[詳細はこちら] <https://wp2025.world.physio/abstracts/>



サポートプログラムには以下のような内容を含んでいます。

- 演題登録の紹介ビデオ(英語、日本語)
- オンライン説明会 Drop in Session*
※気軽に参加することができる説明会です。
- 発表や文章の質を向上させる日本人専門家からの助言やフィードバック など

理学療法士と政治活動

国政や地方議会で活躍する理学療法士や、連盟を含めいろいろな形で政治活動を行っている理学療法士に登場いただき、業界をとりまくさまざまな課題やその解決に向けた取り組みを紹介いただきます。

本誌 vol.348 (2024年4月号)では、令和6(2024)年度の医療・介護・障害福祉の報酬改定で0.61%が賃上げ財源として確保されたこと、その舞台裏についてご説明しました。新聞・報道で皆さまもご存知かと思いますが、今年の春闘では大手企業を中心に高水準の賃上げ回答が相次ぎ、賃上げ率の平均は5.58%とな

りました。一方、今回のトリプル改定によるリハビリテーション専門職(以下、リハ専門職)の賃上げ率は4%程度(定期昇給分を含む)と厚生労働省が発表しています。これまで20年間で上がらなかったリハ専門職の賃金が上がるようになったことは喜ばしいことですが、全産業平均からするとまだまだ低い状況にあります。この状況を打破するために必要なことは何でしょうか。その一つは、リハ専門職による関わりが価値があることを示すエビデンスの提示です。各個人での学会発表や研究も大切であるとともに、地域で疾患・障害に対して理学療法を提供すると、このような効果・社会的利得があるといったマスメディアの提示が今最も求められています。そのためには各地域で、病院施設

間の理学療法士のネットワーク作りが重要です。地域社会をネットワークで支えるリハ専門職が一丸となって、自分達の価値に対する声を上げることで、さらなる賃上げや職域拡大に繋がるのではないのでしょうか。今回の賃上げ財源確保は、理学療法士を始めとしたリハ専門職が活躍できる世の中にするための第一歩です。ともに前に進めましょう。



予算委員会で、リハ専門職に関する質問を関係大臣に行いました

田中 昌史

1965年北海道札幌市生まれ。1987年理学療法士免許取得。2023年1月、参議院議員として繰り上げ当選。田中まさし公式サイト(<https://tanaka-masashi.com/>)





熊木 裕(くまき ゆたか)
福祉機器開発・製造・販売
ケアヘアーズ勤務

Yutaka Kumaki
1958年新潟県上越市生まれ。
1980年3月国立療養所犀潟病院
附属リハビリテーション学院卒業。
同年4月燕労災病院リハビリテ
ーション科、2009年4月新潟労災
病院リハビリテーション科、2013
年4月燕労災病院リハビリテ
ーション科に勤務し、2019年3月定
年退職。2019年4月からケアヘ
アーズ勤務。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍す
る先達から会員の皆さまへメッセージを募集して
おります。
お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

サラ、ナベ、トラスって？

定年退職を機に親交ある友人の福祉機器開発・製造販売の会社
に週2回勤務しています。今までの業務と身近でありながら新しい
仕事です。初めての専門用語がサラ、ナベ、トラス、これはボル
トの種類で個々に役割があります。例えば、サラボルトは頭が
平坦でテーブルの固定等平坦な箇所に用います。仕事内容は、座
位保持装置や車いすのテーブル、足台、吸引器・呼吸器の置台の
製作、背・脚パイプ長の調整、姿勢保持用の体幹骨盤パッド作り
など、患者様が良姿勢で生活しやすくなるようスタッフから指示
を受けます。

仕事上よく指摘されるのはネジ山をなくさないようにすること、
製品なので傷はつけないようにすること、特にクリアテーブルの
カットは削りカスで傷つくのでやり直しもあります。安全管理面
では電動回転丸鋸作業で、過去に高回転する鋸に切れ端がはじか

れ肋骨骨折や鋸刃での指切断の事例があったと聞き、立ち位置や
作業手順については口を酸っぱくしてコメントを受けます。

スタッフとのコミュニケーションは貴重な時間で、指示確認は
もとより、対象疾患の病態や予後、設計の相談を受けたり、時には
愚痴を聞いたり、釣りの話で盛り上がります。立場が変われば
見方や考え方も変わり、今までの経験が役立つこともあり、新鮮
です。

スタッフは営業回り後、作製の現場に入るので大変な思いで仕
事をしています。オーダー時にはリハ専門職は特によく会話して
ほしいと、勤務をしていて感じます。双方のアイデアやプランも
広がり、結果として患者様の生活状況に反映し、家族の一助にな
ります。それぞれの財産になること間違いなしです。私はいつも
ほこりまみれですが、動ける間は頑張ります。

コツコツ学ぼう！ 登録理学療法士 更新ポイント 問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題
解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！
登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用ア
プリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

26 救急救命

解答期限は10月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：127216）、申込期限は「10月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。

INFORMATION

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会(以下、本会)ホームページ内の【マイページ】へログインし、Web
申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAX による各種申請は受けつけておりません。
※Web 環境がない場合、各種手続きについては本会事務局（TEL：03-6804-1421）へお問い合わせください。

会員数 **142,430名** 2024年7月31日現在
※休会者含む

〈参考URL〉
<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>



異動手続きについて

所属施設・自宅住所の変更等の会員登録内容の変更は、本会ホーム
ページの手続案内をご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※施設情報の変更は、施設会員代表者または施設会員代表者代理に割り当てられた方が行ってくだ
さい（【マイページ】→【登録内容の変更・確認】→【施設情報管理】）。
※海外会員に登録される場合は、会費の支払い方法について確認させていただきますので事前に本会
事務局へご連絡ください。

理学療法士の方向けサイト ▶ 協会からのお知らせ ▶ 各種手続き ▶
勤務先・自宅住所・氏名等の変更

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/01/>



マイページ ▶ 登録内容の変更 ▶ 本人情報の確認・更新

<https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/member/dataChange/confirm>



会費割引制度について

本会では、「育児休業」・「シニア」・「海外会員」
について年会費の割引制度を設けております。
本会ホームページにて申請条件をご確認の
うえ、対象となる方はマイページからお手続
ください。

※申請された翌年度の年会費に割引が適用されます。（～2/20まで）

理学療法士の方向けサイト ▶
協会からのお知らせ ▶ 各種手続き ▶
年会費割引制度申請
<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/06/>



休会・退会・復会の手続きについて

会員区分の変更は、本会ホームページにて各種手続きをご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※休会を継続する場合、1年ごとの申請が必要です。申請受付期間（1月1日～3月31日）にご申請ください。手続きがない場合は規定により退会となります。
※退会後、生涯学習履歴・取得資格は無効になります。また、納入済みの当年度年会費はご返金いたしかねます。

休会中・退会後は以下の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加（非会員理学療法士と同様の対応となります）
- 理学療法士賠償責任保険への加入（全員加入・任意加入）
- 各種学会への無料での演題登録
- 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用など
- 会報誌「JPTA NEWS」の発送
- 役員候補者選挙および代議員選挙の選挙権、被選挙権

理学療法士の方向けサイト ▶ 協会からのお知らせ ▶ 各種手続き
<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>



マイページ ▶ 登録内容の変更・確認 ▶ 本人情報の確認・更新
<https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/member/dataChange/confirm>



※Web 環境がない場合、手続きについては本会事務局（TEL：03-6804-1421）へお問い合わせください。

協会運営に関するご案内

- 2024年7月6日（土）に第3回理事会が開催され、7月27日（土）には第3
回理事懇談会、学会運営協議会が開催されました。理事会抄録について
は、会員限定コンテンツよりご覧ください。

会員限定コンテンツ ▶ 協会運営・資料一覧 ▶ 総会・理事会等資料

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/management/minutes/#title02>



- 今後の予定

- 2024年8月31日（土）：第4回理事懇談会・都道府県事務局長会議
- 2024年10月19日（土）：第4回理事会
- 2024年10月20日（日）：組織運営協議会

クラブオフ 今回のおすすめ！

＼ 普段使いやお出かけに ＼



オリックスレンタカー特別プラン
基本料金より

10%～25%OFF

※他の割引との併用不可

ご利用の際には、「日本理学療法士協会 クラブオフ」
へ登録・ログインください。

◎その他サービスの詳細はWebで検索

理学療法士協会 クラブオフ

検索



マイページのご利用について

ログインID
パスワード（PW）の
再発行

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、ID・PWの
再発行申請をお願いします。

（注）お電話によるID・PWのご照会はありません。

<https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html>



会員マイページ専用
アプリのご案内

本会では、会員マイページ専用アプリを提供しています。専用アプリでは、マイページへのオートログインやQRコー
ド読取機能による研修会参加受付が可能になるほか、本会・都道府県理学療法士会からのお知らせがプッシュ通知で
受信できます。ぜひ、アプリをダウンロードのうえ、ご活用ください。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newsystem/>



HOT TOPICS

第12回「笑顔をあきらめない。」 写真コンテスト結果発表！

今回は107点のご応募をいただき、6点の作品が受賞となりました。理学療法の日特設サイトでは、受賞作品をエピソードと合わせて紹介しています。ぜひご覧ください。

最優秀賞

【タイトル】 秋のさんぽで
【氏名】 松政亜美 様



理学療法の日トップページ ▶ 「笑顔をあきらめない。」写真コンテスト ▶
第12回「笑顔をあきらめない。」写真コンテスト

<https://www.japanpt.or.jp/rigakuryohonohi/photocon/12/>



がんのリハビリテーション研修会 2024年度第4期受付のお知らせ

多数の施設にご参加いただいております。本会主催の「がんのリハビリテーション研修会」について、下記にて第4期の研修会受付を行います。奮ってお申込みください！詳しくは本会ホームページ掲載の開催概要をご確認ください。

【第4期申込受付】

2024年10月1日(火)～10月15日(火)

【第4期受講期間】

eラーニング視聴期間：

2024年12月2日(月)～2025年2月1日(土)

グループワーク

1回目：2025年2月15日(土)

2回目：2025年2月22日(土)

理学療法士向けトップページ ▶ 講習会・研修会 ▶
がんのリハビリテーション研修会

<https://www.japanpt.or.jp/pt/seminar/browse/05/>



60周年記念 公募企画のお知らせ

日本理学療法士協会の設立60周年(2026年7月17日)を記念した広報活動の一環として、2点の公募企画を実施します。詳しくは、本会の60周年記念特設ページをご覧ください。

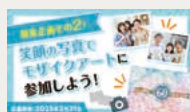
1. LINE スタンプ「にこるくん」のセリフを考えよう！

応募期間：2025年1月10日(金)

2. 笑顔の写真でモザイクアートに参加しよう！

応募期間：2025年3月31日(月)

※ご応募いただいた方の中から抽選でクオカード500名分をプレゼント(1は15名様、2は30名様)



<https://www.japanpt.or.jp/60th/>

厚生労働省に 「リハビリテーション専門職 企画調整官」が配属

本会ではリハビリテーション関連政策の強化のため、厚生労働省をはじめ、関係省庁へ「リハビリテーション課の新設およびリハビリテーション政策を担う担当部局への理学療法士の配置」を要望しています。このたび、本会からの要望を受けて、2024年度より厚生労働省医政局医事課に「リハビリテーション専門職企画調整官」の役職で理学療法士が配属されました。本会は引き続き、疾病や障害のある子どもから高齢者まですべての人々が安心して暮らせる社会の実現のため、スポーツ庁、こども家庭庁、文部科学省も含め、要望活動を行ってまいります。本会が提出した要望書は本会ホームページからもご覧いただけますので、ぜひご確認ください。

トップページ ▶ 協会の取り組み ▶

意見・要望書の提出

<https://www.japanpt.or.jp/activity/procedure/>



日本理学療法士協会雑誌 Up to Date NEWS

【第2巻第3号発刊! (8月20日発刊)】

今号の特集記事は「ウィメンズヘルス」です。

【投稿論文募集中!】

詳しくは本会ホームページ掲載の「投稿規定」をご確認ください。

【協会雑誌 問題解答について】

全問正解で登録理学療法士の更新ポイント(1ポイント)付与されます。

第2巻第3号問題解答カリキュラムコード

126 ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法

解答期限は
2024年11月19日まで

※会報誌「JPTA NEWS」の問題解答(14ページ掲載)とは別のものです。
雑誌は本会のマイページから閲覧ください。

マイページ ▶ 会員限定コンテンツ ▶ 生涯学習支援 ▶

日本理学療法士協会雑誌 Up to Date

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/lifelonglearning/uptodate/>



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数：No.350

発行日：2024年8月20日

発行人：公益社団法人 日本理学療法士協会

〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号

TEL：03-5843-1747 FAX：03-5843-1748

HPへアクセス



マイページ(会員限定コンテンツ)
へのアクセスはこちらから。



代表：斉藤秀之

編集：日本理学療法士協会 事務局

本会HP：<https://www.japanpt.or.jp>